平成24年度採択プログラム 事後評価調書 博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [公表。ただし、項目13については非公表]

九州大学	整理番号	J03
		取りまとめを行っている大学(連合大学院によるも
(ふりがな) くぼ ちはる		
氏名·職名 久保 千春 (九州	大学総長)	
(ふりがな) ひさえだ よしお		
(ふりがな) あだち ちはや 氏夕・ 酔夕	14 七学七学院工学(在物質创选工学市办, 主於教授)
	加入子入于阮工子	刊初頁剧但工于寻找"工针教技》
博士(工学)、博士(理学)、博士(情報 付記する名称:分子システムデバイス	限科学)、博士(学術 、プログラム)
(① 複合化学) (② 電気電子工	学) (③ 経営学	学) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入
基礎化学、材料化学、物理学、応用物	勿理、機械工学、材 装	料工学、プロセス工学、経済学
(1) (2)) (③)※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入
連化学、生物関連化学、機能材料・ラス、生物物理・化学物理、薄膜・表面・	デバイス、高分子・繊 界面物性、電子・電気	維材料、物性、量子エレクトロニク 気材料工学、システム工学、制御工
工字府材料物性工字専攻、工字府を 学府化学専攻、システム情報科学府	^{幾械工字専攻、工字} 電気電子工学専攻	:
 を設置している場合の共同実施機関名		
て参画している場合の共同実施機関	名	
他の大学等と連携した取組の場合の機関名、	研究科専攻等名)	
Centre:imec(ベルギー)、Okinawa Ins	stitute of Science a	
	のの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いて会になりがな) 氏名・職名 久保 千春 (九州) (ふりがな) ひさえだ よしお 久枝 良雄 (平成: (九州大学院) 氏名・職名 欠達 千波矢 (九州大学院) の方子システムデバイス国際研究リーグ のととしている場合の共同実施機関を発達している場合の共同実施機関を発達している場合の共同実施機関を発達している場合の共同実施機関を発きます。 「他の大学等と連携した取組の場合の機関名、ではいている場合の共同実施機関を発達している場合の共同実施機関を表している場合の共同に対している場合に対している。または対している。または対している場合に対している場合に対している。または、またりは対している。または対している。または対している。または対している。または対している。または対している。または対している。または、対している。またりは、またりは、またりは、またりは、またりは、またりは、またりは、またりは、	氏名・職名 久保 千春 (九州大学総長) (ふりがな) ひさえだ よしお

											[公表]								
14. プログラム担当者	番の構成	計	62	名															
外国人の人数	13	١.	21.0	%]	女性の人数		3	人	[4.8	%]								
プログラム実施大学に属する者	が割合 [ļ	59.7	%]															
プログラム実施大学に属する者			37	7 人	プログラム実力	施大学以外に	属する都			2	5 人								
そのうち、他大学等を	経験したことの	ある者	35	5 人	そのうち	、大学等以ダ	に属す	ける者		13	3 人								
15. プログラム担当者	Ť																		
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究	?科• 専:	攻等)•職名	現在の専門 学位		ぞ (平成304	と割分))								
(プログラム責任者) 久枝 良雄 (H30.4.1変更)	ヒサエダ ヨ シオ		大学院工学府・教	授/学府長		生物無機化学・工学博 士	プログ	ラム責任	者										
(プログラムコーディネーター) 安達 千波矢	アダチ チハヤ		大学院工学府 · 物質創造工学専攻	・主幹教授		有機半導体デバイス物 理・ エ学博士	プログラム: 教育センタ-	コーディネータ - 長、統括	一、分子シ	ステムデバイス	、国際リーダー								
髙松 洋 (H30. 4. 1変更)	タカマツ ヒロシ		大学院工学府・ 機械工学専攻・教	授		熱工学・生体熱工学・ 工学博士	プログ	ラム副コ-	ーディネ	ペーター									
古田 弘幸	フルタ ヒロユキ		大学院工学府 · 物質創造工学専攻	· 教授		有機機能分子化学・ 理学博士		引コーディネー ンター運営委員	ター、分子	システムデバィ	′ス国際リー								
石原 達己	イシハラ タツミ	!	固体電気化学・工学博 士	産学連排 教育)	隽教育(统	印的財產	産権の基礎	楚と実践											
小江 誠司	オゴウ セイジ	:	錯体化学・博士 (理 学)	産学連	隽														
金子 賢治	カネコ ケンジ		大学院工学府 · 材料物性工学専攻	教授		材料組織解析学・ Ph. D.	国際連	隽											
神谷 典穂	カミヤ ノリホ		大学院工学府・ 化学システム工学	専攻・教授	:	生物工学・博士(工学)	分子システム括・グルー	ムデバイス国際 ブリサーチブロ	リーダー教 ポーザル	育センター運営	*委員、教務統								
岸田 昌浩	キシダ マサヒロ		大学院工学府・ 物質プロセス工学	専攻・教授	!	触媒反応工学・博士 (工学)	入試、	太報											
君塚 信夫	キミヅカ ノブオ		大学院工学府 · 物質創造工学専攻	・主幹教授	:	分子組織化学・工学博 士	産学連	隽、国際記	連携										
後藤 雅宏	ゴトウ マサヒロ		大学院工学府・ 化学システム工学	専攻・主幹	教授	生物化学工学・工学博士	分子システ <i>ュ</i> インターン:		リーダー教	育センター運営	公 委員、教務、								
田中 敬二	タナカ ケイジ		大学院工学府 · 材料物性工学専攻	· 教授		高分子物性 · 高分子材料学 · 博士 (工学)	分子システム 携、男女共同	ムデバイス国際 同参画リーダー	リーダー教育成	育センター運営	*委員、産学連								
三浦 佳子	ミウラ ヨシコ		大学院工学府・ 化学システム工学	専攻・教授	!	高分子化学・博士 (エ 学)	(H30. 4. 1変	更)、男女共同	参画リータ	一育成、研究	企画発表								
片山 佳樹	カタヤマ ヨシキ		大学院工学府 · 材料物性工学専攻	· 教授		バイオテクノロジー・ 工学博士	プログラム。 ダー教育セン 践教育)	引コーディネー ンター運営委員	ター、分子 、産学連携	システムデバィ 教育 (知的財産	′ス国際リー ≣権の基礎と実								
藤ヶ谷 剛彦 (H29. 4. 1追加)	フジガヤ ツヨヒコ		大学院工学府・ 化学システム工学	専攻・教授	:	高分子化学・超分子化 学・ 博士 (工学)		ムデバイス国際 更)、大学間3											
安中 雅彦	T. 1 足加 /							ーダーの	育成 (3	ミ践英語 教)								
大場 正昭	オオバ マサアキ		大学院理学府・化	学専攻・教		錯体化学・博士 (理 学)	研究企同	画発表、網	総合試馬										
桑野 良一	クワノ リョウイチ		大学院理学府・化	学専攻・教	 授	有機化学・博士 (エ 学)		ムデバイス国際 ナーチプロポー		育センター運営	李員、教務、								
酒井 健	サカイ ケン		大学院理学府・化	学専攻・教	授	錯体化学・光触媒化 学・ 理学博士	研究企同	画発表、網	総合試馬										
徳永 信	トクナガ マコト		大学院理学府・化	学専攻・教		有機化学・触媒化学・ 博士 (理学)		ステムデ <i>ル</i> 一副セン:		国際リータ	ダー教育								
木戸秋 悟	キドアキ サトル		先導物質化学研究	所・教授		医用生物物理工学・ 博士 (学術)	研究企同	画発表、網	総合試馬										
高原 淳	タカハラ アツシ		先導物質化学研究	所・主幹教	授	高分子化学・工学博士	研究企同	画発表、網	総合試馬	ф									

15. 7	プログラム担当者	(続き)				
	氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成30年度における役割)
玉田	薫	タマダ カオル		先導物質化学研究所・教授	ナノ界面物性・博士 (理学)	分子システムデバイス国際リーダー教育センター運営委員、男女共 同参画リーダー育成、研究企画発表、総合試験
吉澤	一成	ヨシザワ カズナリ		先導物質化学研究所・教授	量子化学・博士 (エ 学)	国際リーダーの育成(実践英語教育)
興加	惟司	オキ ユウジ		大学院システム情報科学府・ 電気電子工学専攻・教授	レーザーエ学・博士 (工学)	プログラム副コーディネーター(H30.4.1変更)、分子システムデ パイス国際リーダー教育センター運営委員、教務、グループリサー チプロポーザル、デバイス教育
竪	重也	タテ ナオヤ		大学院システム情報科学府・ 電気電子工学専攻・准教授	応用光学・量子光工 学・ 博士 (情報科学)	デバイス教育
谷口	博文	タニグチ ヒロフミ		学術研究・産学官連携本部・教授 (1/29.4.1変更) ロバート・ファン・アントレブレナーシップ(QREC)・セ ンター長	公共政策・産学連携 ・法学士	リーダーシップ・マネジメント教育
高田	仁	タカタ メグミ		大学院経済学府・ 産業マネジメント専攻・教授	技術商業化・産学連 携・アントレブレナー シップ・修士 (工学)	リーダーシップ・マネジメント教育
熊野 (H29	正樹 . 4. 1追加)	クマノ マサキ		学術研究・産学官連携本部・ ベンチャー創出推進グループ・准教授	ベンチャー起業論・ 博士(商学)	産学連携教育
古川	勝彦	フルカワ カツヒコ		学術研究・産学官連携本部・ 副本部長・教授 (H29.4.1変更)	産官学連携・博士 (理 学)	知的財産教育
松尾	正人	マツオ マサト		九州大学海外コーディネーター・九州大学カリ フォルニアオフィス、Ink ・社長	異文化交流・新事業開 発マネジメント・工学 博士	スーパーリーダー育成のコア教育
川口	大輔	カワグチ ダイスケ		分子システムデバイス国際リーダー教育セン ター・准教授	高分子物性・博士 (エ 学)	分子システムデバイス国際リーダー教育センター運営委員、教務、 グループリサーチプロポーザル
石塚	賢太郎	イシヅカ ケンタロウ		分子システムデバイス国際リーダー教育セン ター・准教授	有機合成化学・ 博士 (理学)	分子システムデバイス国際リーダー教育センター運営委員、教務、 グループリサーチプロポーザル、産学連携
Hui	Joseph Ka Ho	ホイ ジョセフ カ ホ		分子システムデバイス国際リーダー教育セン ター・助教	材料化学・Ph. D.	グループリサーチプロポーザル、語学研修(L-YREP)
宮﨑 (H29	隆聡 . 4. 1追加)	ミヤザキ タカアキ		分子システムデバイス国際リーダー教育セン ター・助教	構造有機化学・博士 (理学)	グループリサーチプロポーザル、入試、 奨励金
臼杵 (H29	幸子 . 4. 1追加)	ウスキ サチコ		分子システムデバイス国際リーダー教育センター・助教 リーディングプログラム支援室・副支援室長	産学連携	産学連携教育
財部	邦英	タカラベ クニヒデ		九州大学非常勤講師・客員教授	微粒子科学・有機光エ レクトロニクス・ 工学博士	一流学・異文化交流学
水野	潤	ミズノ ジュン		早稲田大学・ナノ・ライフ創新研究機構・教授	ナノ・マイクロ理工 学・ 博士 (工学)	デバイス教育、スーパーリーダー育成の コア教育
飯田	和利	イイダ カズトシ		株式会社エア・リキード・ラボラトリーズ・代 表取締役社長	外資マネジメント教 育・ 工学修士	国際産学連携教育
萬ヶ名	净 康弘	マガタニ ヤスヒロ		ハイケムテクノロジー株式会社・営業開発部 担 当部長 (H30.4.1変更)	触媒化学・工学修士	産学連携教育
池田	征明	イケダ マサアキ		日本化薬株式会社・研究開発本部・イノベー ション創出研究センター・センター長	有機エレクトロニク ス・ 有機化学・学術博士	産学連携教育
重本 (H29	建生 . 4. 1追加)	シゲモト タケオ		JSR株式会社・研究開発部・ 研究管理チームリーダー	研究管理・理学博士	産学連携教育
武内	勇	タケウチ イサム		株式会社ラ・ルバンシュ・ 代表取締役	環境技術コーディネー ター・ 経営学士	スーパーリーダー育成のコア教育
高橋	 隆一	タカハシ リュウイチ		BASFジャパン株式会社・ 尼崎研究開発センター・センター長	プリンテッド・エレク トロニクス材料・工学 修士	国際産学連携教育
青木	伸一	アオキ シンイチ		株式会社三井化学分析センター・常務取締役・ 企画管理部長・品質保証室長 (H30.4.1変更)	研究開発管理・人事・ 修士 (工学)	産学連携教育

15. プログラム担当者	針(続き)				
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成30年度における役割)
林 省治	ハヤシ セイジ		三菱ケミカル株式会社・研究開発戦略部・産学 官連携グループ (H29. 4. 1変更)	高分子物性・工学博士	産学連携教育
平石 佳之	ヒライシ ヨシユキ		株式会社日立製作所・ヘルスケアBU 再生医療 プロジェクト・主任技師 (H29.4.1変更)	遺伝子工学・医学博士	産学連携教育
宮地 克明	ミヤジ カツアキ		日産化学工業株式会社・取締役 常務執行役員・経営企画部長・研究企画担当 (H29.4.1変更)	新材料の企画開発・理 学修士	ビジネスマネジメント論
八尋 正幸	ヤヒロ マサユキ		公益財団法人九州先端科学技術研究所 マテリアルズ・オープン・ラボ 有機光デバイスグループ グループ長 (H30.4.1変更)	有機半導体光電子デバ イス・ 博士 (工学)	産学官連携教育
脇本 健夫	ワキモト タケオ		メルクパフォーマンスマテリアルズ株式会社・PM先端技術 事業本部・シニアフェロー/マネージャー (H29.4.1変更)	有機EL・有機TFT・ 有機薄膜太陽電池・ 工学博士	国際産学連携教育
Alan Sellinger	アラン セリンジャー		Colorado School of Mines, Associate Professor	Organic/Hybrid Semiconductor Synthesis • Ph. D. Photon Applied	国際共同連携教育
Yong-Rok Kim	ヨン ロク キム		Yonsei University, Professor	Functional Nanocomposites • Ph. D.	国際共同連携教育
Paul Heremans	ポール ヘルマンズ		imec, Fellow and K.U.Leuven, Professor	Semiconductor Devices • Ph. D.	国際共同連携教育、サテライトラボサ ポート
Sergei V. Dzyuba	サーゲイ ブイ ヅュウバ		Texas Christian University, Associate Professor	Bioorganic & Supramolecular Chemistry • Ph. D.	国際共同連携教育
Yang Yang	ヤンヤン		University of California, Los Angeles, Professor	Solution Processable Thin Film Electronic Devices • Ph. D. Entrepreneurship,	国際共同連携教育
William Lee	ウィリアム リー		eMembrane, Inc., President	Business Development, IP Creation • Ph. D.	国際産学連携教育
Frédéric Peruch	フレデリック ペルチ		Le Centre national de la recherche scientifique, Senior CNRS researcher	Polymer Chemistry - Ph. D.	国際共同連携教育
Yabing Qi	ヤビン チー		沖縄科学技術大学院大学 エネルギー材料と表面科学ユニット・准教授	Surface Science and Organic Electronics • Ph. D.	国際共同連携教育、サテライトラボサ ポート
Julie J. Brown	ジュリー ジェーブラウン		Universal Display Corporation, Chief Technology Officer/ Senior Vice President	Phosphorescent Organic Light Emitting Device Technology • Ph. D.	国際共同連携教育
Curtis Frank	カーチス フランク		Stanford University, Professor	Chemical Engineering • Ph. D.	国際共同連携教育、サテライトラボサ ポート
Paul Midgley	ポール ミジェリー		Cambridge University, Professor	Electron Microscopy • Ph. D.	国際共同連携教育、サテライトラボサポート
Paul S. Weiss	ポール エス ヴァイス		University of California, Los Angeles, Professor	Chemistry • Ph. D.	国際共同連携教育、サテライトラボサ ポート

16. プログラムの応募学生数、合格者数及び履修生数

本プログラムの過去のリーディングプログラム応募学生数等について記入してください。

(各年度3月31日現在(ただし平成30年度は提出日現在))

									(合年度3月	31日現	住 (7:27:1し)	· 030年	度は提出日	<u> </u>
		Ψ. C. A	左曲	平成25	左左	Ψ. 	· 左 垚	平成 2 7	- 左	平成28	· 左 庄	平成29	左曲	平成30	
		平成24	中度	平成25) 年度	平成26) 年度	平成27	/ 年度	平成28	3 年度	平成29	年 度	*(今後の募 有・第	
プ	ログラム募集定員数		-		21		15		15		9		9		9
			-		19		17		15		11		7		7
	うち留学生数		1		3		7		4		5		1		2
① 応募	うち自大学出身者数	-	(-)	14	(0)	11	(2)	10	(1)	6	(1)	6	(0)	4	(0)
学生数	うち他大学出身者数	-	(-)	5	(3)	6	(5)	5	(3)	5	(4)	1	(1)	3	(2)
	うち社会人学生数	-	(-)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
	うち女性数	-	(-)	2	(1)	4	(3)	4	(1)	4	(2)	0	(0)	0	(0)
			-		19		17		15		9		7		7
	うち留学生数		-		3		7		4		3		1		2
② 合格	うち自大学出身者数	-	(-)	14	(0)	11	(2)	10	(1)	6	(1)	6	(0)	4	(0)
者数	うち他大学出身者数	-	(-)	5	(3)	6	(5)	5	(3)	3	(2)	1	(1)	3	(2)
	うち社会人学生数	-	(-)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
	うち女性数	-	(-)	2	(1)	4	(3)	4	(1)	3	(1)	0	(0)	0	(0)
			-		17		17		15		9		7		7
3	うち留学生数		-		3		7		4		3		1		2
②の うち	うち自大学出身者数	-	(-)	12	(0)	11	(2)	10	(1)	6	(1)	6	(0)	4	(0)
履修	うち他大学出身者数	-	(-)	5	(3)	6	(5)	5	(3)	3	(2)	1	(1)	3	(2)
生数	うち社会人学生数	-	(-)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
	うち女性数	-	(-)	2	(1)	4	(3)	4	(1)	3	(1)	0	(0)	0	(0)
(応	プログラム合格倍率 募学生数/合格者数) 対点第三位を四捨五入)	-		1. 00	倍	1.00	倍	1.00	倍	1. 22	倍	1. 001	涪	1. 00	倍
(台	充足率 6格者数/募集定員)	-		90%		113	%	100	%	100	%	78%		789	6

[※]留学生については、「うち留学生数」にカウントするとともに、うち自大学出身者数、うち他大学出身者数、うち社会人学生数、うち女性数の()に内数を記入してください。

[※]平成30年度*(今後の募集予定:有・無)については、平成30年度内に履修を開始する学生を募集予定の場合(秋入学等)は「有」に、募集予定がない場合は「無」に 印を付けてください。

また、「有」の場合は、当該予定分については表中には含めず、備考欄へ募集時期及び募集予定人数を記入してください。

[※]編入学生がいる場合は、年度ごとの内訳を備考欄に記入してください。

No. 10 10 10 10 10 10 10 1									_					1				\			80年度は扱	
W D D W D D D D D D	1グラムの履修生数等			-		-		_			-		- 度	-			-	(1	平成 3 0 提出日(H	年度 30.6))	H31.3.3 (見込)	見了
3.04.77.48.68. 3.04.77.48.68. 3.04.77.48.68. 3.04.77.48.68. 3.04.77.48.68. 3.04.77.48.68. 3.04.77.48.68. 3.04.77.48.68. 3.04.77.48. 3.04.77.48.68. 3.04.77.48.68. 3.04.77.48.68. 3.04.77.48.68. 3.04.77.48.68. 3.04.77.48.68. 3.04.77.48.68. 3.04.77.48.68. 3.04.77.48.68. 3.04.77.48.68. 3.04.77.48.68. 3.04.77.48.68. 3.04.77.48. 3.04.77.48.6		M1 M2 D1 D2 D3 (D1) (D2) (D3) (D4) (D5)	M1 M2 D1 D2 D3 (D1) (D2) (D3) (D4) (D5)		M1 M2 D1 D2 D3 (D1) (D2) (D3) (D4) (D5)		M1 M2 D1 D2 D3 (D1) (D2) (D3) (D4) (D5)				-⊥ 修 辞	M1 M2 D1 D2 (D1) (D2) (D3) (D4)			M2 D1 (D2) (D3	D2 D3 (D4) (D5)	修辞				修 辞 了 退	含計
3.04.77.48.68. 3.04.77.48.68. 3.04.77.48.68. 3.04.77.48.68. 3.04.77.48.68. 3.04.77.48.68. 3.04.77.48.68. 3.04.77.48.68. 3.04.77.48. 3.04.77.48.68. 3.04.77.48.68. 3.04.77.48.68. 3.04.77.48.68. 3.04.77.48.68. 3.04.77.48.68. 3.04.77.48.68. 3.04.77.48.68. 3.04.77.48.68. 3.04.77.48.68. 3.04.77.48.68. 3.04.77.48.68. 3.04.77.48. 3.04.77.48.6	るた例学生物																		-		1-1-	-
3.14 P. 10						 		- - -			- - - 						- - -	 - -	+-+		 	-
3.5 MET N. O.	うち他大学出身者数																		-			-
3.58 T											- - -					- -		- -	-	_ - -		_
3.18 PER 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0	うち女性数	17 0 0 0 0 17			17 0 0 0 0	17 0 1	0 16 0 0 0	16 0 0		16 0 0	16 0 1	0 0 0 15				0 0 15	 15 14	1 0	0 0	0 0	0 0	_ _
3.5.6元年曜日 10	うち留学生数	3 0 0 0 0 3			3 0 0 0	0 3 0 0	0 3 0 0 0	3 0 0	0 0	3 0 0	3 0 0	0 0 0 3	0 3 0	0 0	0 0	0 0 3	3 3	0 0	0 0	0 0	0 0	0
3.5 大田中田 1 1 1 1 1 1 1 1 1		12 0 0 0 0 12	*****		12 0 0 0	0 12 0 1	0 11 0 0 0	11 0 (0 0	11 0 0	11 0 1	0 0 0 10	0 10 0	0 (0 (0 0 10	10 9	1 0	0 0	0 0	0 0	0
3.5 EST 10 1 1 1 1 1 1 1 1 1		5 0 0 0 0 5			5 0 0 0 0	0 5 0 0	0 5 0 0 0	5 0 0	0 0	5 0 0	5 0 0	0 0 0 5	0 5 0	0 (0 0	0 0 5	5 4	1 0	0 0	0 0	0 0 (0
10		2 0 0 0 0 0			2 0 0 0	0 0 0	0 0 0 0 0	2 0 0	0 0	2 0 0	2 0 0	0 0 0 0	0 0 0	0 0	0 0	0 0 0	2 1	1 0	0 0	0 0	0 0	0
5.56元年出帝朝 1	プラス圧数	17 0 0 0 0 17					17 0 0 0 0	17 0 0	0 0 17	0 0 0	17 0 1	0 0 16 0	0 16 0	0 (0 0	0 16 0	16 0	0 0	0 0	0 16 1	6 15	1
3 からかけ (1 を) (1 を) (2 を) (2 を) (3 を) (3 を) (4 を) (5 を) (5 を) (6 を) (7 を) (7 を) (8		7 0 0 0 0 7					7 0 0 0 0	7 0 (0 0 7	0 0 0	7 0 1	0 0 6 0	0 6 0	0 (0 (0 6 0	6 0	0 0	0 0	0 6	6 5	1
35 性 1		11 0 0 0 0 11					11 0 0 0 0	11 0 (0 11	0 0 0	11 0 0	0 0 11 0	0 11 0	0 (0 (0 11 0	11 0	0 0	0 0	0 11 1	1 10	1
5.5 集甲 4		6 0 0 0 0 6					6 0 0 0 0	6 0 0	0 0 6	0 0 0	6 0 1	0 0 5 0	0 5 0	0 (0 0	0 5 0	5 0	0 0	0 0	0 5	5 5 (0
3.5周平生報 4 0 0 0 0 1 0 1 0 1 0 0 0 0 0 1 0 1 0		4 0 0 0 0 4					4 0 0 0 0	4 0 0	0 0 4	0 0 0	4 0 0	0 0 4 0	0 0 0	0 0	0 0	0 4 0	4 0	0 0	0 0	0 4	4 3	1
35 15 15 15 15 15 15 15	7 2 2 1 1 2 2 1	15 0 0 0 0 15							15 0	0 0 0	15 0 1	0 14 0 0	0 14 0	0 (0 1	4 0 0	14 0	0 0	0 0	14 0 1	4 0	0
5 年後天皇帝 8 0 0 0 0 0 0 0 0 0		4 0 0 0 0 4							4 0	0 0 0	4 0 1	0 3 0 0	0 3 0	0 (0 (3 0 0	3 0	0 0	0 0	3 0	3 0 (0
3-5社会/学生版 40 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0		10 0 0 0 0 10							10 0	0 0 0	10 0 0	0 10 0 0	0 10 0	0 (0 1	0 0 0	10 0	0 0	0 0	10 0 1	0 0 0	0
→ 55度開発 4 0 0 0 0 0 4 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0		0 0 0 0 0 0	KKKKK		KKKK	KKK			0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0 0	0 0 0 0	0 0	0 0	0 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0
5 ち島大学出身音数 8 0 0 0 0 0 6 0 0 0 0 6 0 0 0 0 0 0 0 0		4 0 0 0 0 4							4 0	0 0 0	4 0 0	0 4 0 0	0 4 0	0 (0 0	4 0 0	4 0	0 0	0 0	4 0	4 0	0
5 ち由大学出身音数 3 0 0 0 0 0 6 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0		9 0 0 0 0 9						ZZZ				9 0 0 0	0 9 0	0 (9 (0 0 0	9 0	0 0	2 7	0 0	9 0	0
5-6世代学出版 10		3 0 0 0 0 3										3 0 0 0	0 3 0	0 (3 (0 0 0	3 0	0 0	2 1	0 0	3 0 (0
5 計像 子柱像 3 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0		3 0 0 0 0 3										3 0 0 0	0 0 0	0 0	3 (0 0 0	3 0	0 0	1 2	0 0	3 0	0
1		0 0 0 0 0 0										0 0 0 0	0 0 0	0 (0 0	0 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0
5.5 自大学出身者数	うち女性数	3 0 0 0 0 3										3 0 0 0	0 3 0	0 (3 (0 0 0	3 0	0 0	1 2	0 0	3 0 0	0
35自大学出身音数	2 T 22 TH T W	7 0 0 0 0 7								444	444				7 0 0	0 0 0	7 0	1 0	6 0	0 0	6 0 (0
35.社文学出表音数		6 0 0 0 0 6		\times					$\times\!$						3 0	0 0 0	6 0	0 0	6 0	0 0	6 0	0
うち女性数 0 0 0 0 0 0 0 0 0		1 0 0 0 0 1													0 0	0 0 0	1 0	1 0	0 0	0 0	0 0	0
3		0 0 0 0 0 0													0 0	0 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0
55 自大学出身者数 4 0 0 0 0 4 4 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	うち女性数	7 0 0 0 0 0 0														0 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0 0	0
55 自大学出身者数 4 0 0 0 0 4 4 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	うち留学生数	2 0 0 0 0 7							K//				KKK		KK	KK	\mathcal{H}	1 2	0 0	0 0	2 0	0
うち社会人学生数	うち自大学出身者数	4 0 0 0 0 4														XXX		4	0 0	0 0	4 0	0
うち女性数 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0		3 0 0 0 0 3						$Z_{1}Z_{2}Z_{3}$						$Z_{i}Z_{i}$		VVV		3	0 0	0 0	3 0 (0
方の留学生数		0 0 0 0 0 0							H						\times		\mathscr{H}	0	0 0	0 0	0 0 0	0
うち留学生数 20 10 10 10 10 10 10 10	うち女性数	72 0 0 0 0 0 72			17 0 0 0	0 17	17 16 0 0 0	33	15 17	16 0 0	48	9 14 16 15	0 54		9 1	4 16 15	61	7	8 7	14 16 5		4
うち他大学出身者数	うち留学生数	20																			4	1
うち社会人学生数		49												\angle							7	1
うち女性教 13 修了者数 0 うち数職者数 0 計選者数 0 対職に伴う辞退者数 0 が職に伴う辞退者数 0 公園修生以外で、プログラ 本局を受験して 122 74 50 62 79 36		23							H				KK				XX		\mathcal{A}		<u> </u>	1
修了者数									K/						KK	KK	\mathcal{H}	KK	//			╁
辞退者数 犹職に伴う辞退者数 A履修生以外で、プログラ 122 74 50 62 79 36	修了者数								1//								14				15	1
就職に伴う辞退者数 A開発生以外で、プログラ 122 74 50 62 79 36									1/Z					ZZ	1/V		14				1/2	1
A履修生以外で、プログラ キュラムの一部を受滅して 79 36 79 36										444												Y
キュラムの一部を受講して			VVVVVV		VVVVV				YV	////			VVV			レレレ						X
	ロルでは、カース カーター カース カーター カース カーター 大小 カーボ を受講して 数				122		74			50		62				79			36			

^{※「16.}プログラムの応募学生数、合格者数及び履修生数」と整合性を取ってください。 ※標準修業年限を超えて在学する者は、「D3 (D5)」欄に計上してください。

[※]満期退学者は修了者には含めず、退学した時期の「辞退」欄に含めてください。満期退学者のうち退学後に学位取得した者(プログラムが修了者と認定する場合に限る。)については学位取得した時期の「修了」欄に記入し、該当者の経緯について備考欄に記載するとともに、右端の「辞退計」欄及び「修了計」欄は二重計上とならないように「辞退計」から該当数を差し引いてください。 ※「就職者数」にはプログラムを修了後に就職した者に表した者も含む。」のみをカウントしてください。また、満期退学後就職した後に学位を取得した者はカウントしてください。なお、社会人学生の現職継続は含めないでください。 ※辞退者(QEによるものも含む)や満期退学者がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

7. プログラムの履修生数・ ②医・歯・薬・獣医学の4年制			数																						ij	友当7	まし															(:	各年度:	3月31日	3現在	(ただし	.平成30	[公表(f 0年度は	備考概 :提出日	を除く 3現在
									4			\				1		1	,						>						>						1	<u> </u>					1							
プログラムの履修生数等	(選抜年		生数 辞退は	除く。))	平	成 2 H25.3	4 年度 3. 31)			5.3.31 - 6.3.30		平成 (H2	2 5 年 26. 3. 31	F度 1)		H26.3 - H27.3			平成 2 (H27.	2 6 年 . 3. 31)			127.3.3 - 128.3.3			戈27 4 28.3.3			H28.3.3 H29.3.3			成28 H29.3.			H29.3 - H30.3		4	² 成29 (H30.3	9年度 . 31)		H30.3 - (提出		平 (提	成30 出日(H	年度 30.6))		H31.3.31 (見込)	1 見 記	修見込
) -) J = 0/18/19 ± 30/1	D1 0	02 [03 D	i at	D1	D2	. D3	3 D4	1 at	修了	辞退	D1	D2	D3	D4	<u>a</u> †		辞退	D1	D2 [D3	04		多 新 了 追	‡ D1	D2	D3	D4	a+	修訂	章 艮	1 D2	D3	D4	2 +	修了	千立	D1 D	2 D3	D4	計	修了	千立.)1 D:	2 D3	D4	# #	修辞		
- うち留学生数		-			0			+		0						0							0		-				0		-	-			0						0						0			0
平成 24 うち自大学出身者数 うち他大学出身者数					0		+			0						0							0		-				0		-	-	-		0		_				0						0		-	0
選抜 うち社会人学生数 うち女性数		-	-		0	-	+		-	0					_	0				-	-		0	-	-				0	-	- -	-			0	H	_		-		0		_	-			0		+	0
うち留学生数					0		1	7		1						0							0						0						0						0						0			0
平成 うち自大学出身者数 25					o o											0							0						0						0		<u> </u>				0						0		1	0
年度 うち他人子田身有数 うち社会人学生数 うち女性数						\angle		\angle	\angle		Z					0							0						0						0						0						0			0
						\angle	\neq	\neq	\angle	Z	$\not \sim$	Z				Ž							0						0						0		#				0						0		╁	0
平成 うち自大学出身者数 2 6 ラナルナ学出身者数					0	\times	\times	\times	\times	\times		\leq				\leq		Ŕ					0						0						0						0						0			0
年度 うち社会人学生数					0							\geq				\geq		7					0						0						0						0						0			0
うち女性数					0	+		+						\overline{A}	=	=	A												0						0						0						0	+		0
平成 うち留学生数 27 うち自大学出身者数					0	\angle	\angle	\mathbb{Z}	\angle	\angle	$\langle \cdot \rangle$	\leq				\leq				\angle	\angle		\angle	\angle					0		-	-	-		0		_				0						0		-	0
年度 うち他大学出身者数 選抜 うち社会人学生数					0	1			/										\nearrow	7	\nearrow	7	7						0						0						0						0			0
うち女性数		+	1		0					1					4														0			+			0		4				0		= -				0		+	0
平成 28 うち自大学出身者数 3 または大学出身者数						\mathbb{Z}	\mathbb{Z}	\mathbb{Z}	\mathbb{Z}	12	\mathbb{Z}												1	\mathbb{Z}	12	\mathbb{Z}									0						0						0		#	0
年度 フラ他人子田身有数					0	\times	\times		\times										\rightarrow	\nearrow	\rightarrow		7	\times											0		<u> </u>				0						0		1	0
選抜 うち社会人学生数 うち女性数						1	1/2	K		K	$\not =$	2							4				X	1/2	12				2						0	J					0						0			0
うち留学生数										$\not\vdash$	$\not =$	\leq		\leq	4	\leq	\angle						1						\leq		32		\neq	$\not\vdash$	$\not\vdash$		\leq				0						0			0
平成 29 年度 うち自大学出身者数 うち他大学出身者数					0				7	Į	Ź	Ź	Ź											Ţ										Ź	Ź,		2				0						0			0
選抜 うち社会人学生数 うち女性数					0							\leq		\leq	\leq	\leq	\leq	\leq	\geq	\leq	\leq	\leq	\geq	\leq	2				\leq	\leq	22						\leq				0						0			0
っち留学生数					0	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{2}$	=	\leq		\supseteq	4	eq	\mathcal{A}	\leq	4	$\frac{1}{2}$	4	$\frac{1}{2}$	2	$\frac{1}{2}$	12	$\frac{1}{2}$		=	\leq	2	26	$\frac{1}{2}$	=				2	=	+	=		Δ	1				0			0
平成 30 5ち自大学出身者数 うち他大学出身者数					0																																										0			0
年度 選抜 うち社会人学生数 うち女性数						+	+	+	+	+	\forall		$\overline{\ \ }$	A	\mathcal{A}	$\overline{}$	X		A	\mathcal{A}	A	\mathcal{A}	4	+		+	$\overline{\parallel}$		=	A		+	\forall	\forall	\forall	H	4	$\overline{\mathcal{A}}$	+	+	M	M	=				0		-	0
うち留学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	7		0	0	0	0			0	0	0	0	9	\mathcal{A}			0	0	0								7		0	0	0			0	0 0	0 0	0		7	0
うち自大学出身者数 計 うち他大学出身者数					0		7			1	7				7		7													7				1	1		7									=	0			0
うち社会人学生数			#					#	*	1	$\not \sim$				7		4							#									*				4									\nearrow	Ö			0
修了者数 うち就職者数			1		*				*	1					\Rightarrow		0					\angle	1	0						0						0				*		0		1			ď			0
辞退者数												_			_				_		_				_					1							_			_					_	\neq			0	Ĭ
うち就職に伴う辞退者数 プログラム履修生以外で、プログラ				\succ	ť					f	_			<u> </u>	<u> </u>			\forall	<u> </u>				1		+			<u> </u>			\forall						\nearrow						\nearrow						\star	_
のカリキュラムの一部を受講してる学生数		_															/							_						_																		/		_
(備 考)																																																		

^{※116.} プログラムの応募学生数、各格者数及び履修生数」と整合性を取ってください。
※編集修業年限を超えて在学する者は、「D4.期間に計上してください。
※編集修業年限を超えて在学する者は、「D4.期間に計上してください。
※清期連学者は修了者に含めてください。
※清期連学者は修了者に含めず、選学した時期の「辞道」棚に含めてください。
満期連学者と認定する場合に限る。)については学位取得した時期の「修了」棚に記入し、該当者の経緯について備考欄に記載するとともに、右端の「修了計」欄及び「辞退計」欄は二重計上とならないように「辞退計」から該当数を差し引いてください。
※「就職者数」にはプログラムを修了後」に歌唱した者に含む。
のみをかつントしてください。また、海南選学後就職した後に学位を取得した者はカウントしてください。なお、社会人学生の現職継続は含めないでください。
※「新連者(QEによるものも含む)や満期連学者がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

【概要】(最先端分子系材料が次世代産業を牽引、そしてスーパーリーダーの必要性)本プログラムでは、最先端分子システムデバイス科学の構築により、他の追随を許さない次世代の産業コアの形成に資するため、産官学が一体となった教育研究チームを形成し、高度な最先端分子系材料科学の研究を自ら推進でき、さらに、幅広い科学技術に対する俯瞰力を兼ね備え、国際社会でリーダーとして活躍できる人材を育成する。そして、高度な研究開発の専門性の深化に加え、研究マネージメント、知的財産権、経営政策、国際戦略等に対しても鳥瞰できる人材の輩出を目指す。科学技術の研究は、高い論理的思考と考察力を求められることで閉じた思考に陥りやすいが、人間性が高く、リーダーとなっている人は、情熱と理性の調和を保ち、小さくまとまらず、チャレンジを忘れない。本教育プログラムでは、"分子システムデバイス科学"をコアに、研究者としての科学的なポテンシャルを高めながら、研究開発へのチャレンジ精神、俯瞰力をもって国際的に活躍できるスーパーリーダーの育成を目指す。 "最先端分子システムデバイス科学"、"研究に対する情熱・発想力"、"研究マネージメント力"、"国際性"を身につけることで、基礎研究から出口を見据えた応用研究までの一貫した研究開発のスーパーリーダーを育成する。

【特色】(産官学連携スタッフによる教育プログラムの概要)

1、2年次において、大学教員、国内外の民間企業の複数教員の 指導によるチャレンジングな最先端研究活動を基礎に、基礎力 の涵養と同時に複数の専門知識を習得させる。また、所属研究 室の異なる学生を3名程度のグループに分け、彼らが自由に議 論できる専用オフィスを準備し、コミュニケーションによる相 乗効果を体感できる演習講義を行うことで、「議論による発想 力」、「考え抜く力」、「決断力」、「諦めない意志」が研究成果の 創出につながることを体験し、各自の個性と気質を醸成する。 また、連携企業への国内インターンシップを通して、研究者と しての萌芽期に企業の現場を知る機会を設ける。3年次には、 最長 9 か月間、UCLA、スタンフォード大学、imec

分子システムデバイス科学 の最先端研究開発リーダー 研究に対する 情熱・発想力 デバイス科学 マネージメント・ リーダー教育

(Interuniversity Microelectronics Center)、OIST (沖縄国際科学技術大学院大学)等の海外研究機関での共同研究を実施し、欧米流の研究推進手法を体得する。4、5 年次は、伊都キャンパスに隣接する伊都サイエンスパーク内の福岡市産学連携交流センター (FiaS) にオープンイノベーションラボを準備し、実践的な応用展開を視野に入れた少人数グループによるテーマ提案 (グループリサーチプロポーザル; LP-GRP)を行い、研究開発活動にあたる。ここでは、異分野の研究者を集結させ、徹底した議論から新しい研究展開を具体化させ、民間企業での即戦力としての研究実践能力の育成と研究戦略マインドを醸成する。また、九大アントレプレナーシップ・センター (QREC) / 九大ビジネススクール (QBS)と連携し、研究開発リーダーとして必要となる知的財産権、経営と会計に関する基礎知識とマネージメント論、リーダーシップ論を学ぶ。このように、九州大学伊都キャンパス、海外研究機関での研究活動、伊都サイエンスパークの3拠点において研鑽を積むことで、基礎サイエンスの視点、国際的な視点、産業界の視点から研究開発を俯瞰できるトップリーダーの育成を行う。

【優位性】(優れた研究・教育実績) 九大工学府応用化学系を核とする本拠点は、これまで研究 COE (岩村・新海)、教育 COE (久枝)、21世紀 COE (新海)、グローバル COE (君塚) と全ての COE を獲得し、"分子集積化学"の世界的拠点形成に至っている。21世紀 COE のアウトプットとして設立した未来化学創造センター (CFC) は、上述の FiaS での強力な産学官連携活動を通して、既にいくつかの基礎研究シーズの実用化に成功している。さらに、グローバル COE で培われた国際教育研究基盤は、分子システム科学センター (CMS) にその機能を移行して研究活動の更なる展開を図っている。また、本プログラムコーディネーターの安達は、最先端研究開発支援プログラム (FIRST) において国内 30拠点の一つとして認可を受け、最先端有機光エレクトロニクス研究センター (OPERA) 及び有機光エレクトロニクス実用化開発センター (i-OPERA) を立ち上げ、有機集積デバイスに関する基礎から実用化までの包括的な研究開発を産学官連携で実施している。以上の様に、本拠点は、"分子集積科学"に関する高い教育研究実績を、実社会に役立つ"分子集積デバイス"の研究開発を通したリーダー育成へと展開する本プログラムの実行に十分な実績と基盤を有する。

プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

分子システムデバイス科学 ― 教育プログラム(5年一貫コース)



プログラムの成果

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成するという観点に照らし、学生や修了者の活躍状況を含め、アピールできる成果について記入してください。)

1. グループリサーチプロポーザル (LP-GRP) を核にした産学連携教育体制の構築

グループリサーチプロポーザル (LP-GRP) と海外武者修行を軸に据えて、研究開発に対する情熱と発想力、および、ビジネスマインドとリーダーシップ能力を育む一貫した教育プログラムを構築し、学内外の教員と参画企業が一体となった組織的な産学連携教育を実施した。LP-GRP とは、コース生3~4人からなるグループのオリジナルな研究アイデアをシーズとして、分子システムデバイスに関する研究提案、それから生み出される知的財産、事業計画ならびにそれらのリスク分析の4項目を

資料冊子にまとめて発表を行うプロジェクトベースドラーニング科目である。プロポーザルをまとめる過程において、学内外の教員および参画企業の協力メンバーとの議論の機会を設定し、研究に対する独創力や発想力、社会的価値の視点を伴う俯瞰力を育成した。LP-GRPの評価に際し、ルーブリック評価表を導入し、「評価基準の見える化」を実施した。これにより、コース生および学内外の多様な専門性を有するプログラム担当者



【LP-GRP:チームによる新規研究計画とビジネスプランの提案】

間で評価基準の共通理解が進み、多角的な評価を実現した。

2. 修了者の就職状況と学生の活躍状況

- (1) **修了者の就職状況**: H30 年 3 月に修了した 14 名の 1 期生のうち、71%に相当する 10 名が企業に就職し、4 名が国内外の大学に就職している。本プログラムの実施専攻における博士号取得者は、就職先は、素材化学産業のみならず、自動車産業、サービス業(シンクタンク)など、多岐にわたっている。また、企業に就職した 10 名のうち、2 名は参画企業に就職している。このことから、LP-GRP を通じて産学連携教育体制とともに博士人材のキャリアパスが構築されたことが伺える。
- (2) 学生の活躍状況(特許出願、受賞実績など):コース生のアイデアの下に実施される LP-GRP の成果として、これまでに 2 件の特許が出願されている。コース生の学術雑誌発表論文数は合計 58 編であり、そのうち海外武者修行時に実施した研究成果による発表論文数は 10 編である。学会発表件数は 517 件(うち国際発表 180 件)である。コース生・修了生の受賞件数は合計 10 件で、その中には、第 17 回大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト NEDO 特別賞、文部科学省次世代アントレプレナー育成事業(EDGE-NEXT)のシンポジウムにおける最優秀ポスター賞、Startup Go!Go!2017優勝など、本コースのアントレプレナーシップ教育の成果も含まれている。

3. コース生の成長度・満足度

本プログラムが実施したアンケートによると、修了者全員がプログラムを履修したことに満足し、また、93%の修了者が俯瞰力の向上を、86%の修了者が独創的な能力の向上を実感していた。また、修了者は本プログラムを通じて専門分野・世代・国籍が多様な人たちとのネットワークを構築できたと実感している。

プログラムの成果

(大学院改革につながる教育研究組織の再編等の学内外への波及効果や課題の発見について記入してください。)

1. グッドプラクティスの学内展開

本コースの取組みの中でも、LP-GRP および海外武者修行は特にコース生の汎用力の育成に効果的な教育カリキュラムであったため、グッドプラクティスとして学内への定着を図っている。LP-GRP は学際領域を開拓する研究者人材の育成に向けた優れた教育手法と位置付けている。そのエッセンスを抽出した「工学研究企画」という科目を工学府博士後期課程共通の専攻横断型新設科目としてH30 年度より導入した。また、海外武者修行はグローバルな視野で先導的な研究分野を開拓できる人材の育成に必要な取組と評価している。工学府ではイリノイ大学への組織的派遣を可能にし、博士後期課程学生の海外武者修行の定着を行っている。

2. 九州大学大学院教育改革とコースの継続

九州大学は総長のリーダーシップのもと、H29 年 11 月に、教育課程の改善や教育方法の向上など、全学的な教育改革を各部局と強靱な協力体制のもと推進する組織として「教育改革推進本部」を設置した。これは、学内に分散する複数の教育支援センター等を再編成し、学部から大学院教育に至る体系性を持ったカリキュラムを構築し、教育の質の向上を図る教学マネジメント組織である。この組織は、本学 3 リーディングプログラム等の教育成果を踏まえた大学院教育改革に関する検討を経て、H30 年 3 月に「九州大学大学院教育改革指針」を提言し、H30 年 3 月に教育研究評議会にて議決された。この指針は以下に示す、4 つの基本方針からなっている。①「最先端・独創的研究に基

づく大学院教育及び産業界等のニーズに対応した大学院教育の展開」、②「特定の専門性に軸足を置きつつも柔軟かつ機動性のあるオーダーメイド型の学位プログラムの編成、より客観性のある学位審査体制の構築」、③「学内外の人材登用による大学院教育の「担い手」の多様化、異なる社会的・文化的背景、専門性をもつ大学院教育の「受け手」の多様化促進」、④「社会的ニーズの分析など客観的根拠に基づく学位プログラムの不断の見直し」、である。この改革指針を実現する具体的な教育プログラムとして、学府、専攻及び教育プログラムを横断するオーダーメイド型の大学院学位プログラムを横断するオーダーメイド型の大学院学位プログラムを編制できる柔軟な仕組みの整備を進めている。この学位プログラムをダ・ヴィンチプログラムと名付けられている。

分子システムデバイスコースは、ダ・ヴィンチプログラムの先行モデルとして補助期間終了後も継続し、本学の大学院教育改革の先導役を担う。また、LP-GRPを通じて構築した参画企業との連携体制を強化し、コース生・参画企業および教員による共同研究の実施について検討している。これを可能にするため、本コースの運営母体である分子システムデバイス国際リーダー教育センターの改組についても検討を行っている。

LP版ダ・ヴィンチプログラム(仮称)の概要 プログラムが目指す人材の輩出 学位授与 <u>LP版ダ・ヴィンチプログラムのカリキュラム(案)</u> ションプログラム が一体となって互いにが一体となって互いに 博士研究 リサーチ プロポーザル リサーチレビュー インターンシップ海外武者修行・し 未来創造共同研究 博士研究 New-GRP LP総合試験 Trans Literacyを育むための動機付け科目 New-GRP(技術、知的財産、社会的価値、リスク分析) <u>工学府</u> ノステム 理学府 情報科学府 物質創造工学真攻 物質プロセス工学専攻物質プロセス工学専攻材料物性工学専攻化学システム工学専攻 化学専攻 電気電子 工学専攻 機械工学専攻 水素エネルギーシステム専攻 入コース プログラム独自の入試